

## 令和 6 年度事業報告について

### I 概 要

令和 6 年度は、会員数の伸び悩みとこれに伴う一部業務の受注件数の減少などの影響は見られたものの、3 年連続の最低賃金の改定の影響もあり、請負・委託に加え派遣事業を含めた契約総額では 5 年度を 1, 9 0 3 万円上回る、8 億 3, 0 0 6 万円に達しました。

経常収支については収支相償の原則や遊休資産の適切な管理を意識して運営に努め、結果的に前年度より大幅に減少したものの 4 年連続の黒字決算となりました。今後はさらに改正認定法施行や公益法人会計基準の見直しに適切に対応していくことが求められています。

また、会員相互の親睦・交流事業や地域単位での活動、シルバーまつりなどのイベント事業や地区懇談会にも積極的に取り組み、元気で活躍するシルバー会員の姿を地域にアピールすることができました。

わが国では高齢化、少子化と人口減少のさらなる進展に伴い、活力ある社会を持続していくため「生涯現役社会」構築に向けた取り組みが進められています。とりわけ年齢にかかわらず働く意欲と能力のある高齢者が活躍できる場であるシルバー人材センターへの期待と役割が大きくなっています。

シルバー人材センターがこうした期待に応えるとともに、就業の依頼に対応していくためには、会員の拡大が急務ですが、定年延長など高齢者を巡る雇用環境の影響もあり、会員数が伸び悩んでいる状況です。

全国シルバー人材センター事業協会（以下「全シ協」という）が旗振り役となって全国的な取り組みを続けていますが、当センターでは、令和 6 年度の会員数は前年度と比較して 3 6 人減少し、年度末現在 1, 4 9 2 人という結果になりました。

シルバー人材センターで最も重要なことは、作業事故等を防ぎ安全に就業することです。当センターでは、安全委員会を中心に就業時の事故防止に向けた取り組みを進め、「KYT 研修」を実施するとともに、法定設置の「衛生委員会」において健康診断の勧奨や派遣就労会員等を対象としたストレスチェックの実施等に取り組みました。しかしながら、特に安全就業に関して、残念ながら 6 年度は損害賠償事故等が多発し、改めて事故防止対策が大きな課題となりました。

また、令和 6 年 1 1 月からフリーランス法が施行されたことに合わせ、スマホ等の ICT 機器を活用した就業条件の事前明示方法を採用するとともに、事前に

発注者側のご理解をお願いしながら、新たな包括的契約方法への転換のための準備を進めました。

## Ⅱ 事業の実施状況等

### 1 就業機会の拡大

当センターでは、企業の人手不足の解消や、多忙な子育て世帯や高齢者世帯に対する生活支援等、多様化する地域ニーズに対応した新たな就業機会の確保と拡大に努めました。

また、長野県シルバー人材センター連合会（以下「県シ連合会」という）との連携による、国庫補助制度等を活用した「高齢者活躍人材確保育成事業」にも取り組みました。

その他、就業機会の拡充をはじめ、独自事業や福祉・家事援助サービスの拡充、事業の普及啓発活動等を進めました。

#### (1) 国の補助制度等を活用した事業

- ① 高齢者活用・現役世代雇用サポート事業による就業機会の拡大、派遣事業の推進
- ② 地域就業機会創出・拡大事業で得たノウハウを活かし、空家の適正管理事業や放課後学習支援事業、りんご栽培及び栽培員養成事業の一層の推進
- ③ 高齢者活躍人材確保育成事業では、就業機会・就業者の拡大を目指して、高齢者のデジタルリテラシー向上を目標とした「スマホ活用術講習」を実施しました。

#### (2) 独自事業・自主事業

- ① 独自事業として、シルバーショップえがお、刃物研ぎ、シルバーファーム、門松作り、シニアパソコン教室等の事業の継続の支援
- ② 「シニアパソコン教室」では、通常のパソコン教室の他、スマホ講座を継続して開催。また、高齢者向けスマホ教室の講師やホームページの作成等のニーズに対応できる体制づくりを推進
- ③ 「放課後学習支援」は独自事業として運営
- ④ 「門松作り」は、原材料の調達が課題となる中、様々な工夫を重ね、例年より規模を縮小しながら事業を継続

#### (3) 福祉・家事援助サービス事業の推進

- ① 介護予防・日常生活支援総合事業等の推進
- ② 高齢者生活援助サービス事業の推進

#### (4) 普及啓発活動の推進

- ① ハローワーク等と連携した説明会の実施
- ② 広報や地方紙への広告掲載、チラシの作成配布による普及啓発活動の実施
- ③ 会報「広域シルバーまつもと」で会員の活動等を紹介、普及啓発用カレンダーの作成・配布
- ④ ホームページでセンターの情報や互助会の活動を発信
- ⑤ ホームページとリンクしたLINE公式アカウントでの情報発信
- ⑥ イベントを通じたシルバー事業の周知・啓発（第17回シルバーまつり、ふれあい広場等）
- ⑦ 普及啓発月間における各地区の一斉奉仕活動を通じたシルバーのPR

## 2 安全適正就業の徹底

全シ協では、「安全は全てに優先する」をモットーとして、全国的に安全適正就業の徹底に取り組みました。当センターにおける事故発生状況は、傷害事故は前年比1件減の10件でしたが、賠償事故では刈払い機での飛び石事故が15件と多発しており、物損賠償事故全体では前年比で7件の増となっています。特に、刈払い機を使う際に安全意識が希薄で安全対策がなされていないケースが多くみられたことから、安全な機材を低廉な価格で斡旋するといった緊急対策を実施し、継続して安全講習等を開催し啓発に努めていくこととしました。

また、多くの会員が安全への意識を高められるよう、地区懇談会等で安全に対する説明を実施した他、2月に開催した安全委員会による集合研修「KYT研修」では、互いに意見を出し合って自分一人では気が付かない危険因子を見つける体験をしてもらい、続く3月には「刈払機実技講習」を開催しました。これらの研修では、剪定業務や除草業務、その他共同作業や農業作業、公園管理作業などにあたる会員が一堂に会し真剣に取り組みました。

#### (1) 令和6年度の事故発生状況

|    |      |           |
|----|------|-----------|
| 合計 | 28件  | (6件増)     |
| 内訳 | 傷害事故 | 10件 (1件減) |
|    | 賠償事故 | 18件 (7件増) |

#### (2) 安全就業

- ① 作業班の班員を対象とした危険予知(KYT)研修、刈払機実技講習会の実施、刈払機作業時の意識啓発及び安全就業チラシの配布、作業前の「安全ミーティング」実施の徹底等
- ② 安全委員会によるパトロールの実施、事故原因や改善策検証の実施

- ③ 熱中症の予防に関する会員への周知、啓発
- ④ K Y T (危険予知トレーニング)教材の開発と活用
- ⑤ 運転業務の安全に配慮し、発注者との調整を実施
- ⑥ 労働安全衛生法に基づく「衛生委員会」の開催、会員への健康診断の勧奨、産業医への健康相談、派遣就労会員等を対象としたストレスチェックの実施

### (3) 適正就業

- ① 県シ連合会の適正就業に関する調査結果を踏まえ、請負になじまない就業の派遣への切替え検討や、洗濯業務及び宿直等、専門業法に関連する事項について改善を実施

## 3 組織体制の充実

### (1) 組織体制の充実強化

シルバー人材センターの掲げる「自主・自立、共働・共助」の理念を実現していくためには、仕事だけでなく様々な活動を通じて会員同士が助けあっていくことが重要です。

令和6年度は会員の交流機会の確保に配慮した運営に努めました。

- ① 参集方式による地域班長会の開催、地区懇談会の実施
- ② 職群班への加入促進と技術・安全意識向上に向けた取組
- ③ 地域作業班活動の充実・強化、班員の登録推進
- ④ 女性会員の拡大に向けた、女性委員会の企画運営による講座の開催
- ⑤ 会員の交流の場であり、多くの会員が関わるシルバーショップえがお、喫茶えがおの充実
- ⑥ 事業部会及び総務部会において、最低賃金への対応、会員増加策などの課題について検討し、理事会において標準作業単価の見直し等を実施
- ⑦ 会員アンケートの結果を活用し、入会説明会などでシルバー人材センターの魅力をアピール
- ⑧ 情報化促進委員会が中心となり、ホームページ及びLINE公式アカウントの活用、情報伝達システム「smile to smile」のスマホ登録を推進

### (2) 会員の拡大施策

会員の拡大に最も効果をあげている月2回の定例会説明会は、予定した回数をすべて実施するとともに、会員が自ら知人友人を説明会に勧誘するキャンペーンも実施しました。

また、ハローワークでの説明会など機会を捉えてPRに努めました。

さらに県シ連合会と連携した「高齢者活躍人材確保育成事業」（国庫補助）では、スマホ活用術講座を開催しましたが、予想を超える参加者があり、若干ではありますが、入会された受講者もみられました。このようなきっかけを入会に繋げていくことが課題です。

- ① 「高齢者活躍人材確保育成事業」（国庫補助）を活用した取り組み  
スマートフォン活用術講習 11名参加
- ② 「会員ひとり1会員募集活動」の継続と総会での表彰の実施
- ③ 入会促進キャンペーンとして、会員による入会説明会参加者の紹介事業を実施（紹介会員に粗品贈呈） ※13名紹介、うち6名が入会
- ④ ハローワークと連携し、シニア再就職支援セミナーでシルバーの活動紹介と入会案内を実施

### (3) 会員の技術向上

除草作業に従事している会員を対象に技術と安全就業の講習会を開催

- ・刈払機実技講習会 3月 20名参加

### (4) 第17回シルバーまつりの開催

11月9日（土）、シルバーまつりをセンター及びセンター芝生広場で開催しました。会員や一般参加者400名が参加し、センターのPRを図りました。

### (5) 「シルバーふれあい広場」の開催

6月は「山菜まつり」として、11月はシルバーまつりの部門の一つとして開催しました。なお令和5年度にシルバーファームと合同で開催した野菜苗市はシルバーファームの単独開催となりました。

### (6) 関係機関との連携

松本市、山形村やJA松本ハイランド、松本商工会議所等の関係団体との連絡を密にし、センター事業へのご支援・協力をいただきました。

また、全シ協や県シ連合会が主催する研修会等に参加して情報を的確に把握し、適正な事業運営に努めました。

## 4 財政基盤の強化・健全化

令和6年度の事業実績は、前年比1,903万円増の8億3,006万円となりました。請負・委託及び派遣事業分がいずれも前年を上回ることができました。補助金は、高年齢者就業機会確保事業として国から2,126万円余の交付を受

け、松本市と山形村からは市村を合計して2, 174万円余の補助金をいただくことができました。

また当センターでは、令和5年10月から請負に係る事務費率を10%に改定したことから事務費収入が増加しています。

世界情勢を背景としたサプライチェーンの混乱や円安のため、燃料や資機材、電気代などが高騰しており、国内の人件費も高騰しています。今後、新たな包括的契約方法への移行をはかり消費税納税額の節減を目指していますが、デジタル化に係る経費や事務の煩雑化に伴う人員体制の充実といった課題も多く残されています。

令和6年度の収支決算については、最低賃金や事務費率の改定などにより収益が確保されたことから全体の収支では、210万円余の黒字となりましたが、新年度に納税する消費税には到底及ばない額ですので、引き続き計画的な運営に努める必要があります。

なお、特定費用準備資金として、50周年記念事業へ向け、50万円の積立を行うとともに、資産取得資金として2,000万円を積立て、将来の車両更新に備えました。

## 5 事業実績（3月末）

契約金額（派遣事業含む）830,060千円 前年比 +19,031千円(2.3%)

（うち公共請負）256,788千円（前年比 4.9%）

（〃 民間請負）353,023千円（〃 △1.1%）

（〃 一般家庭）105,246千円（〃 2.5%）

（〃 独自事業）20,843千円（〃 △7.6%）

（〃 派遣就業）94,159千円（〃 4.6%）

就業率 79.0%（〃 △2.6ポイント）